

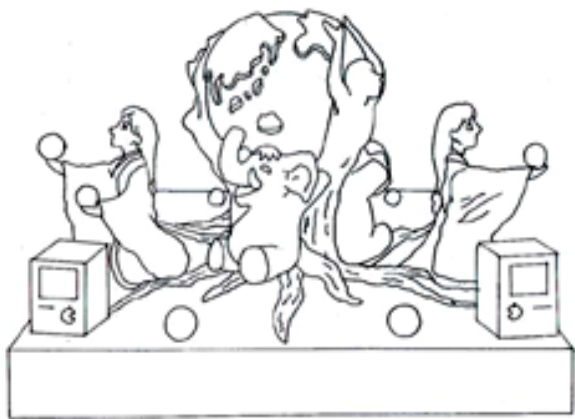
### バーチャル雪まつり開幕！

札幌新川高校 吉岡 隆

バーチャル雪まつり1997、1月30日からいよいよ大通公園で制作スタートします。1月24日付さっぽろ雪まつり実行委員会から最終案のプレスリリースが発表され、今年のテーマは「We are the one!」に決定しました。今回のバーチャル雪まつりのテーマは生徒達がメーリングリストで4ヶ月の話し合いの末に決めたものですが、これは先月お伝えした「自宅ネットワーク学習プロ」により生徒が冬休み中も自宅からダイヤルアップで話し合いを続けた成果です。学校がインターネットになかなか接続すらできない状況で家庭にはどんどんインターネットが入ってきて、それを使いこなしてしまう子供達には我々より先の社会に生きているのかもしれませんが、大通公園での制作に先駆け熊本阿蘇長陽中の2年生達は、Holy堀尾先生の指導の元に大寒波で積もった雪でさっそく最終案の雪像を校庭に制作しました。

1月30日～2月2日までの制作ですが、メディアキッズコンソーシアムを代表して神奈川大附属高校3年の箕輪君が小林先生が制作に参加する為来札します。その他の参加校は制作参加グループとホームページ制作グループに分かれ、会場からはPHSを使ったモバイルコンピューティングで途中経過をE-mailでレポートし、それを札幌に来ることができない参加校の生徒達が自分達の視点で各校のホームページにまとめていきます。

また、HBCの協力で、すでに会場のVIDEO-NTによる中継は24時間行われており、バーチャル雪まつり1997のホームページからも進行状況をみていただくことができます。



VSF1997 雪像最終案：作画

北海道札幌新川高等学校1年 牛坂 安希  
神奈川大学附属高等学校3年 箕輪 真人

2月1日にはオンラインとオフラインの交流会をCUSMで開く予定で、2月5日には雪まつりの開幕に合わせNHKによる全国生中継も行われます。会場は大通公園7丁目広場(VSFの旗目印)、平日は16:00より制作していますので、飛び入り差し入れ等の参加をお待ちしています。

### 高校新聞制作技術講習会の報告

札幌星園高校 高瀬敏樹

お正月気分もまだ抜け切らない1月10日、北星女子短大を会場に第7回の高校新聞制作技術講習会が行われました。参加者は全道各地から集まった高校新聞部顧問ら約30名。

まず初めには、「報道写真あれこれ」と題し、北海道新聞社編集委員の谷口氏よりレクチャーを受けました。武田支部長所有の「拡大投影機」(ガラス台の上に写真や書類を載せると、口径15cmほどの大きなレンズ通して前方のスクリーンへ拡大して映し出されるという、アナログながらとても便利な機械)を使っでの説明に、大いに納得させられました。



次に、「コンピュータによる新聞制作」ということで、武田支部長と高瀬が実技講習を行いました。Mac上のPageMaker6.0Jを使って、A4判の模擬新聞を作ってみようというのがその内容でしたが、Macは初めてという参加者も多く、4時間ほどの講習ではなかなか完成まで辿り着けなかった人もいました。ただ、DTPソフトとはどんなものなのかということはわかっていただけたのではないかと思います。

また、当日はACEの荒島副支部長、吉村事務局長、

青柳編集長、道新の花川さんに実習のサポートして頂きました。ご協力に感謝いたします。熱心な久保先生からの依頼があったら函館の大妻高校へ行く必要があるかもしれません。

## 北海道の教育メーリング・リスト計画 ～いよいよやるぞ！！～

札幌発寒中 荒島 晋

### 1. 企画までの経緯について

・大学はもとよりインターネットが使える環境をもつ小・中・高校が増えてきている。具体的には北教大附属校、100校プロジェクト、IWE'96('96.12.31で終了)、こねっとプラン、Media-Kids、I C Eそして稚内北星短大によるものである。

・それぞれが具体的な教育実践に取り組んでおり、それぞれのプロジェクト毎にMLやWebBoardなどによる情報交流の場を持っている。しかし、大半が各プロジェクト内のみのClosedな場合が多く、より多く広く交流を持つまでに至っていない。

・教員のコンピュータ・ネットワークへの関心も徐々に高まりを見せている。しかし、多くは商用パソコン通信を利用していることもあり、席を隣にしながらネットワーク上での交流もいま一つ活発ではないことが多い。

・中教審や教養審の審議過程を見るに、今後益々コンピュータ・ネットワークが教育現場に導入されることは明らかである。教育現場に携わる者は、まず自らがネットワークに触れる機会を持つべきである。

その様な中で、北海道の教育関係者に様々な垣根を乗り越えた広い交流の場が必要であると考えに至った。しかしながら、そのようなプランを具体的に進めていくには、誰かがどこかが「お世話役」にならないと進まないものである...で、教育とコンピュータ利用研究会(A C E)北海道支部では考えたのあります。

### 2. 名称

北海道の教育メーリング・リスト(Hokkaido Educational Mailing-List)(仮称)

### 3. 目的・意義

(1) 初等中等教育・高等教育などの校種、研究会・学会、行政・現場・組合などの立場を越えた中立的な「教育関係者の交流の場」の提供

(2) 100校やこねっとなどのコンピュータ・ネットワークの教育実践プロジェクトの垣根を越えた「交流の広がり」の提供

(3) 北海道の教育の活性化を目指したヒューマン・ネッ

### トワークの構築

すでに教育現場においては、教師間のコンピュータやネットワークの知識や力量の差は歴然としている。ここでは、ヒューマン・ネットワークの構築を目指し、コンピュータ・ビギナーから第一人者まで、幅広く学校教育関係者が参加できる体制を考えたい。当然、NiftyServeやPC-VAN、オーロラネットなどパソコン通信利用者への参加も呼びかけたい。

### 4. ML 設立の呼びかけ人

単独の研究会や学校が呼びかけたのでは、十分な広がりが見込めない。また、中立性を強くアピールすることが難しい。教員によっては研究会や学会に参加するイメージを持ってしまい、「敷居の高い」ものになってしまう。そこで、複数の団体からの呼びかけを行いたい。

(現在考えている呼びかけ人)

・教育とコンピュータ利用研究会(A C E)北海道支部(確定)

・ネットワーク コミュニティー フォーラム'96(N C F '96)(確定)

・岩見沢サイバー教育研究グループ(I C E)(確定)

・稚内北星短期大学(ムフフ、期待しています)

・こねっとプラン北海道事務局(これから交渉します)

・千歳A M E(これから交渉します)

あと、抜けているのはどこでしょう？

### 5. ML の参加対象

・北海道の学校教育関係者(教員とは限定せず、教育行政や研究に携わる人の参加も進めていきましょう)インターネット上で地域を限定するのはナンセンスなのはわかっています。したがって、「去るものは追わず来るものは拒まず」「北海道の 北海道縁りの」位になると思います)

・ただし、実名性を強く要求したい(ハンドルネームやチャットネームは使用しない)発言する人の背景がちょっとわかれば話題も整理しやすい。

### 6. 経費

・予算は全くなし。運営のための会費の徴収も考えていません。

### 7. 運営

教育関係と言うことを第一に考えると、現在の北海道において、取り組み・実績・技術力・情熱・中立性など各点で「最北端は最先端」稚内北星短大に優るところはなし。(これだけ誉めたたえるとボツはないだろ)

・MLの設定やテクニカル的な面では稚内北星短大にお願いしたい。

・各種コマンドが使用でき、入脱会、配信の中断・再開、参加者リストの取り寄せなど参加者が自由にできること。

・その他の運営に関する「雑用」は当面、A C E 北海道が請け負いましょう！

## 8. 参加の呼びかけ方法

- ・既存の ML に対してメールを流す。
- ・それぞれが個人メールで参加の呼びかけをする。
- ・道新のデジタルアンの面あたりでアナウンスしてもらう。
- ・札幌市に関しては文書を市立学校全てに発送する。
- ・教委、研究所に対しては...ポイントとなりそうなところに「郵政省メール」で文書を発送する。と、とりあえずこんな感じです。

かいつまんで言うと、こねつとを例にとると、こねつとは独自の ML も Web も持っているのですが外部に対して閉じていて、何をやっているのか外からはさっぱりわかりません。札幌に限って言うと中はほとんど止まっています。だから、100 校だって似たようなところがあります。だから、せっかくなインターネットが入っているんだからプロジェクトが違ってももっと連結して情報交換しようじゃないか、というのが目的です。

いろいろな意見交流があってそのなかから新しいプロジェクトが生まれてくる可能性があると思います。

学校教育では北海道はやっぱり蝦夷で外地なんです。このままじゃいけないと思います。その思いもこの ML を作りたいという思いにつながっています。

で、こういうのは誰か「アホウ」がいないと進みません。それで、ACE 北海道が「アホウ」になろうじゃないかということになりました。

「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにや損々!!」て訳です。みなさん、隣近所を見渡して、人材を発掘しましょう!!

## ACE 全国総会開催!!

以下のように今年度の ACE 全国総会が開催されます。

日時：1997 年 2 月 22 日（土）18:00 ~ 21:00

総会 18:00 ~ 19:00

懇親会 19:00 ~ 21:00

会場：幕張プリンスホテル『プリンスホール』

海浜幕張駅南へ徒歩 5 分（JR 京葉線）

Tel.043-296-1111

議案：事業報告、決算報告、会則改訂、役員改選等  
懇親会参加費用：会員 - 3,000 円

すでに、本部事務局より総会出欠（委任状）の葉書が届いていると思います。北海道支部からは武田亘明支部長、青柳貴文編集長、荒島 晋代表幹事等が出席します。出欠の葉書を 2 月 10 日迄に本部事務局に返送してください。

昨年度のスターは九州支部でした。今年は東北支部

のデビューです!

### 役員改選のお知らせ

会則「役員」の項目により、1997 年度役員改選を行いますので、立候補・推薦をお願いします。

1996 年度 幹事会役員一覧

会長：渡辺 隆（新潟県：上越教育大学自然系）

渉外・広報担当幹事：

清水 英典（東京都：明星学苑明星小学校）

## Mac World Expo/Tokyo'97 開催!!

期日：1997 年 2 月 19 日（水）～ 2 月 22 日（土）

時間：10:30 ~ 18:00（最終日 22 日は 17:00 まで）

会場：幕張メッセ

2 月 22 日（土）幕張メッセ国際会議場 301

14:30 ~ 15:30

「小中学校・養護学校とアップルテクノロジー～メディアキッズ&先進事例紹介」

・Macintosh を使った中学生によるホームページ作成実践（人口 2,000 人の村、福島県葛尾中学校からの情報発信（これは渡部先生 @100 校の登場か!?））

・養護学校で利用される Macintosh

ハンディーキャップを持つ子の世界を広げるメディアキッズ

大阪教育大学附属養護学校（中島先生）

滋賀大学附属養護学校（太田先生）

（このコンビ、日本の最北端稚内では飽きたらず、今度はどんなパフォーマンスで会場を沸かせるのでしょうか!?）

・メディアキッズダイジェスト 97

メディアキッズでの先進実験プロジェクトの紹介

コミュニティ・ネットワークの重要性

国際大学 GLOCOM・メディアキッズ会長 新谷 隆

（おほほ、しんうちはやっぱり新谷先生ですか）

16:00 ~ 17:00

「専門学校・大学とアップルテクノロジー～Apple マルチメディアフォーラムによる先進事例紹介」

・Apple マルチメディア標準技術体系に準拠したマルチ

メディア教育を実施している教育機関の先進事例紹介

・Apple マルチメディアフォーラムのご案内

みんなで ACE 会員を応援しよう!!



## Sybold`96 セミナーレポート vol.2

## カラーマッチングの極意

サテライト 伊藤明彦

東京ビッグサイトで開催された印刷関連展示会の Sybold`96 セミナーで行われた、『カラーマッチングの極意』について報告します。

## ・カラーマネジメントの重要性

コンピュータを利用すると、色々な素材を取り入れてイメージの世界を表現できるようになりましたが、スキャナやモニタ、プリンタなど様々なデバイス間の調整は、出来上がる作品の品質を大きく左右します。One コンテンツ Multi ユースを効率的に実現するためには、それぞれの機器の特性を考慮したワークフローを検討する必要があります。カラー WYSIWYG を実現するためには、Apple の ColorSync などに代表される CMS (Color Management System) などの技術が有効になります。

このプロセスの中で、後の行程の品質を大きく左右するのが入力(スキャニング)です。スキャニングすれば、あとは補正できると考えるのは間違いです。スキャン時に失われたディテールは、決して取り戻すことが出来ません。さらに重要なことは、スキャニングには素材の読解が必要だということです。素材の特徴と目的を理解して最適のスキャニングをする必要があります。スキャニングは、経験を積んだプロの領域だとされる理由はこのためです。

## ・キャリブレーションとカラーマッチング

キャリブレーションは個々のソフト/ハードの特性に応じた調整のことで、カラーマッチングは異なるデバイス間の補正のことです。この2つは多くの人が混同しています。それぞれの機器を最適な状態で利用するためには、キャリブレーションが必須です。この調整を怠る人は、度数の狂ったメガネを平気で掛け続けているようなものです。また、スキャナとディスプレイ、プリンタとの間の色合わせをするのが、カラーマッチングです。ColorSync では、それぞれの機器の特性を記述した ICC Profile というデータが使われます。

## ・PhotoCD の開き方

フォトCDは、すぐれた画像入力手段として有力な選択肢です。ところが、多くの人が誤ったデータの開き方をしています。「写真」というフォルダに入っている PICT は、QuickTime で開かれるプレビュー用の画像です。フォトCDのデータは、Photo\_CD > Images > IMG001;1 にあるコダック PhotoCD ファイル形式のデータです。このファイルは、ダブルクリックではなくて「開く」のメニューから実行します。

## ・あなたにもできる画像補正

画像補正には、素材となる写真の特性を読む多くの経験が必要ですが、一つのパターンを紹介しますので、活用してみてください。入力解像度は175線の印刷を前提に360dpiを基準にしています。青チャネルのざらつき除去とRGBのレンジ補正を重点にしています。印刷原稿をスキャニングする場合には、網点が出てしまうモアレ現象を除去する必要があります。

## 1) スキャニング画像を Lab モードに変換する

Lab モードは、最も広域の色空間を表現できます。補正は Lab モードで行い、あとで必要なモードに変換します。

## 2) ch1 にアンシャープマスクをかける

後の行程のシャープネス操作でざらつきが拡大するので、最初にアンシャープマスクをかけておく

例：適用量 240、半径 1.8、敷居値 3

## 3) ch3 にぼかしをかける

一番ざらつきがでる ch3 にぼかしをかける (ch2 には、決してぼかしはかけない)

例：明るさの中間値、半径 2

## 4) RGB にモード変換する

## 5) RGB それぞれの ch のレベル補正をかける

ハイライトポイント、シャドウポイント、グレーポイントを調整する。この段階は入力機器の特性によって操作範囲が異なる。撮影時にカラーチャートを写し込んでおく補正の助けになります。

## 6) CMYK 変換する (印刷する場合)

各社のインクデータの特性に合わせて色分解します。

## 7) 使用する解像度と大きさにリサイズする

## 8) アンシャープマスクをかける

今後ますますカラーマッチングの重要性が増して、表現の質が求められるようになるでしょう。制作に際して、様々な機器の特性を理解するための基本的な考え方を身に付けて置くことは大切です。

-----  
ニュースレターが新しくなりました。  
mash 工藤さん、ありがとう!!

あなたはもうお気づきでしょう。ニュースレターのレイアウトが2年ぶりにリニューアルしました。支部会員の mash 工藤さんのご尽力によるものです。

かっちょえー!

題字のデザインは、本当はカラーで、名刺に刷ってもばっちりです。ホームページで確認してね。

<http://www.infosnow.or.jp/mash/extra/ace-extra.html>

工藤さん、ありがとうございました。

-----  
教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

1997年1月27日発行